|  |
| --- |
| 広島県立賀茂高等学校(全日制課程)　「国際教育の実践」  HP: http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/ |

１　本校の概要

　本校は創立110年目になる賀茂台地の伝統校である。西条駅から西に徒歩15分の場所に位置し，９割以上の生徒が東広島市内から通学している。ほとんどの生徒は卒業後，大学への進学を希望しているため，第１学年から習熟度別授業を行い，個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行っている。

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒数 | 753人（男子348，女子425） |
| 教職員数 | 65人（非常勤講師10を含む） |
| 平成27年3月卒業生の進路 | 国公立大51， 私立大155，文科省所管外大学校 1,短大11,　専門学校36，就職8，その他13 |

２　本校の国際教育

（１）賀茂高校のミッション

賀茂台地の伝統校として，その歴史と校是「信　敬　愛」を誇りとし，文武両道に励み，随所にリーダーとして，郷土をはじめ社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

|  |
| --- |
| ○自分とは異なる文化や考え方を尊重し，積極的にコミュニケーションを取ろうとする。  ○異文化を背景とする人々に積極的に英語で発信する。 |

（２）平成２７年度の国際教育について

|  |  |
| --- | --- |
| ５月 | 台湾　桃園市　永豊高級中学来校（２学年） |
| ７月 | グローバル人材育成プログラム（２学年） |
| ９月 | オーストラリア　ＧＥＥＬＯＮＧ高等学校来校（２学年） |
| 10月 | 姉妹校　韓国　ミチュホル外国語高等学校にて本校教員による交流授業 |
| 10月 | 広島大学留学生との交流（1学年） |
| 11月 | 姉妹校　韓国　ミチュホル外国語高等学校による韓国文化についての交流授業 |
| 12月 | 姉妹校　韓国　ミチュホル外国語高等学校来校予定（１学年） |
| １月 | 姉妹校　韓国　ミチュホル外国語高等学校訪問予定 |

（３）台湾・オーストラリアの高校生との交流の実践（２学年）

今年度は，国際教育を進めるにあたり，交流内容をＥＳＤの視点でとらえ直し，教材のつながり，人のつながり，能力・態度のつながりを重視した。実際の交流は，英語表現の授業の中での文化紹介に関する単元で学んだ内容を活用する場面として，総合的な学習の時間に実施した。

|  |  |
| --- | --- |
| 次(時) | 学習内容 |
| 春休み課題 | 東広島についての案内を英語で書く。  1 東広島のおいしいもの，名所，有名人などについて書く。  2 写真または絵を3枚以上使って説明する。  3 ガイドブックなどに載っていない情報を必ず書く。 |
| １ | ・Vision Quest Ⅱの教科書の本文で取り上げられた文法事項や語彙・表現を確認する。  ・Vision Quest Ⅱの教科書の本文やモデル文を読んで，文の構成を理解する。  ・自分が海外の高校生に紹介したい日本の食べ物について，マインドマップを描き，内容をまとめる。  ・構成に注意しながら，文章を書く。 |
| ２ | ・前時で確認した文法・語彙が正しくかけているかどうかをペアで確認しあう。  ・共通の誤りについては，板書をし，説明する。  ・4人～5人のグループ内で積極的に発表を行い，グループで一番紹介したい食べ物を決定する。  ・グループ内で協力しながら，よりよいプレゼンになるように原稿を書きなおす。(書きなおした原稿は，ＡＬＴとＪＴＥでチェックをする。)  ・想定される質問を考える。  ・プレゼンで用いる資料の準備をする。 |
| ３ | ・海外からの高校生に，グループごとに日本の食べ物を紹介する。  ・生徒の司会で進めていく。 |

○　教材の「つながり」について

　　今回は，生徒に日本文化，特に地域の文化を英語で説明することを課題とした。多くの生徒が小学校での地域学習，中学校での総合的な学習の時間の学習内容をもとに題材をさらに研究し，英文に仕上げていた。

○　人の「つながり」について

　　聞き手となる海外からの修学旅行生は，文化背景も違い，日本語がほとんど通じないということを意識させた。その結果，聞き手の理解を容易にするために，日本特有のものを説明するとき，「お好み焼き＝Japanese pizza」というように相手の文化から想像しやすいものを例えとして挙げたり，実物や絵などの資料を用意したりして，工夫していた。

また，相手の滞在日数や旅行の行程を考慮に入れて，観光地や駅・空港などで手に入りやすい食べ物を紹介するなど，その相手にとって役立つ情報を選択しようとしていた。

○　能力・態度の「つながり」について

　　　生徒の多くが，絵や実物，アイコンタクトなどを用いたり，効果的な構成を意識したりして，説明を行っていた。小中高でのスピーチやプレゼンテーション活動を通して「自分の伝えたい内容を整理し，わかりやすく伝えるための工夫をしながら自分の考えや主張を話す力」が高まり、コミュニケーションにおける積極的な態度を生んでいた。

４　成果と課題

○　外国語を使用する機会を与えて，コミュニケーション能力が向上した。

○　相手を意識させることによって，相手の国を知り，自国への理解も深まった。

○　学校内外の人材や組織との連携を促進し，身近なところから世界とのつながりを感じ，学校における国際教育の充実・活性化を図っていくことが課題。